

創立50周年記念式典を開催

協同組合広島県鉄構工業会

5月25日(木)、協同組合広島県鉄構工業会(理事長 山本泰徳)は、創立50周年を記念し、式典及び祝賀会を開催した。



記念式典の様子

式典は、湯崎広島県知事、一般社団法人全国鐵構工業協会の永井会長他、多数の来賓を迎えて盛大に開催され、昭和48年設立当時の組合の歩みについて動画上映が行われた。



青年部による「未来宣言」

式典の最後には、青年部のメンバーが広島県の鉄骨業界の望ましい姿を目標に掲げた下記「未来宣言」を高らかに宣言した。

1. 鉄骨製作という仕事が社会で果たす重要な役割を自覚して、「モノづくり」の楽しさに自信と誇りを持ち貢献します。
2. 新しい技術や機械を導入し、若者や女性が活躍でき、未

来の明るい業界にしていきます。

3. 様々な「広島県方式」を導入し、仲間の絆をより深め一致団結して、これから我々を待ち受ける未来に勇気をもって挑戦します。

組合では近年、行政幹部や県建築関係者との関係強化や、動画やSNS等により業界PRの強化に尽力することで、鉄骨製作会社(ファブリケーター)の社会的認知度の向上と、社会的役割の理解の促進に力を入れてきた。同時に、従来無料で対応していた公共工事設計見積りの有料化を開始し、制度を定着させるとともにファブリケーターの技術的ノウハウの価値を再評価・承認させることにも大きく貢献している。

山本理事長は挨拶の中で、「我々自身を変革することで、従来の鉄工所から鉄骨製作会社へとイメージを変え、“かっこいい”と思ってもらえる業界にしたい」と語られた。

創立50周年を機に、先人の努力に敬意を表するとともに、現在、そして未来を変革し続ける決意をし、新たな50年先を見据えて走り出す。